

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成26年12月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成26年12月17日(水) 開会：午後2時10分 閉会：午後4時40分
会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

委員 長	小川 新太郎	委員長職務代理者	高木 久美子
委員	福田 理絵	委員	佐藤 勲
教育 長	関川 義雄		

出席職員

教育 長	関川 義雄 (再掲)		
教育総務部長	深山 芳文	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	伊藤 和信	学校施設課長	藤崎 宏行
学務課長	柳 鶴 暁	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	木川 義夫
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課課長補佐	木内 悦夫
教育総務課計画調整係長	鈴木 浩和	学校施設課整備係長	越川 房邦
保育課長	伊藤 昭夫	保育課課長補佐	菱木 澄子
教育総務課課長補佐(書記)	加瀬林 操		

【会議概要】

1. 委員長開会宣言

2. 教育長報告

主催事業等

○11月29日 明治大学・成田社会人大学修了式について

初めに3課程の代表者による学習成果発表会があった後、明治大学学長をお招きし修了式を行った。今年度の修了者は、国際社会課程85名、地域社会課程94名、緑地環境課程39名、

合計で218名、修了率は89%だった。また修学士は24名、教学士が2名、弘学士が3名で、ここで学ぶ皆さんの意欲が感じられる修了式だった。

○11月30日 2014成田POPランについて

本大会には事前に5,501名の申込みがあったものの当日の参加者数は、4,802名という結果であった。昨年は直前に比較的大きな地震が発生し、電車の遅れなどがありスタートに間に合うかどうかギリギリの方も多くいらっしやったが、今年はスムーズに進行できたのではないか。また、大きな事故も無く無事に終了出来て何よりであった。

○11月30日 市史講座について

POPラン大会が行われた日の午後、市の委託事業として実施している「成田山門前町調査研究事業」の中間報告も兼ね、この事業を中心になって行っている慶應義塾大学の鈴木正崇教授と千葉商科大学の久保田滋子非常勤講師による「門前町に生きる」と題した講演があった。今回は市役所6階大会議室で行ったため、希望者は初めから全員入室することができた。成田山門前の研究については、今回どれだけの研究成果があるのか注目して講演をお聞きした。自分たちの住んでいる地域の歴史には誰もが関心があり、どのような出来事があったのか、人々の暮らしはどのように変遷してきたのだろうか等々興味は尽きない。この日の講演はその一端を紹介するに留まった。本当に一部のみの話であり、私には全体像はあまり見えてこなかったように感じた。これまでの書物に見られないような新たな事実であるとか発見があれば、さらに興味が増すのだが、年中行事や習慣、信仰など今ここに住んでいる方々の聞き取り中心の調査だけでは、なかなか浮かび上がってこないかもしれない。まだ研究半ばであるので、今一步踏み込んだ成果を期待したい。

○12月9日 公民館運営審議会について

今年度第2回目の公民館運営審議会が開催された。内容については今年度の公民館主催事業の進捗状況を報告すると同時に新年度の事業計画案を示し各委員のご意見を伺った。主だったところでは、公民館運営審議会も各地の公民館を回るようにして開催してはどうかといった提案や、公民館登録サークルが減っているという問題提起。公民館に男の人を集める工夫についての意見、さらには公民館の職員が積極的に情報提供をしてくれたり親身になって相談に乗ってくれたりすると利用者も増える。「相談に乗ってくれる係や担当者など決めてもらうことは出来ないか」などといった公民館運営に対する積極的な改善案などを出していただいた。これらの内容については真摯に受け止め改善できるものについてはすぐにでも改善するよう心掛けていきたい。

○12月10日 成田市校長会議について

西中学校で開催。私からは各学校が課題としていた事柄に対し、どのような対応策を講じ、

その結果どうであったかをしっかり分析してほしいこと。その結果、改善が進んでいない場合は新たな対応策を考え実施すること等を話した。当たり前のことだが、こうしたことを各学期単位ぐらいで繰り返し実践していかないとなかなか学校の課題は改善されない。学校によっては課題に対する改善策を考えてもそれが全く機能していない例も見受けられる。こうした学校では、既に何か月も課題を抱えたままで一向に進展が見られず学校運営が躓いたままである。私が直接アドバイスすることもあるが、全職員が自校の課題を意識し、その改善策について話し合い、誰もが同じように動ける組織を作っていく必要がある。校長のリーダーシップが本当に生きて働くような学校でなければならない。

○12月16日 順天堂大学コーディネーション運動同好会への感謝状贈呈について

成田市で行っている放課後子ども教室に、特にご協力をいただいている順天堂大学コーディネーション運動同好会に対し、教育委員会として感謝状をお贈りした。この同好会は豊住小学校において放課後子ども教室の手伝いをしていただいているもので、特に子どもたちに様々な運動を通して体を動かすことの楽しさや、仲間と協力し合って遊ぶことの面白さを、自ら子どもと一緒に動いて伝えて下さっている方々である。大学の勉強を終えてからのボランティア活動であるが、その熱心な指導には本当に頭が下がる思いである。

市議会

○11月21日～12月11日 平成26年12月成田市議会定例会について

11月26日から28日まで一般質問、12月1日に教育民生常任委員会が開催された。一般質問では、會津議員からコンビニに並ぶ成人向け雑誌について、大倉議員から学校での平和教育の取組、ユネスコが進めているESD（持続発展教育）の取組について、鶴沢議員から国際文化会館の中庭地下空洞問題への対応について、水上議員からは国の教育委員会改革についての考え方と今後の取組について、飯島議員からは英語教育について、修学旅行での航空機利用について、タブレット端末の活用についてなど多くの質問を、また油田議員からも情報機器の整備に関する質問を、雨宮議員からは部活動を理由とした指定学校変更について、ニュータウン地区の学校適正配置の見直しについてなど今回も大変多くの質問をいただいた。今回は議会開会直前まで様々な行事が続き答弁の内容検討に十分な時間をかけることが出来ず苦心した。次回の議会も同様のスケジュールになりそうなのが心配である。せめてあと1～2日の余裕が欲しいと思う。教育民生常任委員会では教育委員会からの議案はなく、教育に関する事務の点検評価、学校教育振興基本計画の策定、学校給食施設整備実施計画に係るパブリックコメントの実施、中台運動公園体育館アリーナ床改修工事、JR成田駅東口再開発ビル内多目的ホールギャラリーの名称についてを報告させていただいた。

その他

○11月20日～23日 2014世界サンボ選手権大会について

11月20日に成田ビューホテルでウエルカムパーティーを開催。世界サンボ選手権に出場する各国の役員等が出席した。初めにサンボ連盟の表彰があり日本からもオリンピック金メダリストでありロシアとの親交も深い柔道の山下泰裕氏などが招待され表彰を受けた。立食形式のパーティーだったが、国際色の豊かなパーティーで中心となる言語はロシア語。日本人以外のほとんどの人が、式典の挨拶中に平気でバイキング料理を食べている等、ちょっと私たちの常識では考えられないような状況が見られたが、終始和気あいあいとして楽しい雰囲気でありまだまだ日本ではマイナーなスポーツではあるが、世界大会という華やかな状況を肌で感じる事ができた。翌日、議会開会日の夕方から中台体育館で世界サンボ選手権大会の開会式があった。前日のウエルカムパーティーもそうだったが、国内大会とは違って時間通りには開会せず、かなりの待ち時間があったようやく開会。この大会の名誉会長である元総理の森喜朗氏も出席されたり、アジア大洋州局長もお見えになった。開会式では、君が代が聞き取れないほどの音量でしか流れなかったり、森元総理の挨拶が正しく通訳されなかったりと森氏もあきれてしまう場面もあったが、長い時間をかけてようやく終了。その後すぐにコンバットサンボやスポーツサンボの決勝戦が行われ迫力のある試合ぶりに圧倒された。

○11月20日 ふれあいレストランについて

毎年この時期にふれあいルームの子どもたちが中心になって食事を作り、それを指導員さんや指導主事の先生方と一緒に食べるという催し。同じ釜の飯を食べるということで、心を閉ざした子ども少しは打ち解けた気持ちになるのではないかという期待もある。実際、私も輪の中に入ると子どもたちの笑顔がたくさん見られ何かほっとしたような気分になった。こうした取り組みを地道に続け今は学校に行けなくても、やがて心を開き自立への道を歩めるよう支援していくことは大切なことだと思った。

○11月23日 ユニセフラブウォーク IN 房総のむらについて

房総のむらで第5回目の大会が開催された。当日は房総のむらや栄町観光協会が全面的に協力し、百数十名の方々の参加があった。参加された方々は、房総のむら周辺の3キロコースと5キロコースのどちらかを選んで歩くことになっていたが、私は5キロコースに参加し多くの参加者と共に気持ちよくウォーキングすることができた。途中、龍角寺跡を時間をかけて見学したり風土記の丘周辺の古墳群の間を通りぬけて歩いたり、のんびりとしたウォーキングを楽しんだ。なお、この参加費はユニセフの募金に充てられる。参加者が多ければ多いほど募金が増えることになる。ボランティアで明るく頑張っておられる方々が大変爽やかに感じられた。

○11月28日 小中学校体育連盟印旛支部表彰祝賀会について

メルキュールホテルで印旛地区小中学校体育連盟の平成26年度の表彰祝賀会が行われた。

市内では、前林小学校が文部科学大臣表彰を、久住中学校の佐々木校長が県体育連盟表彰を受賞したため、印旛支部から記念の楯が贈られた。参加者は何と300名を超えたため、全員が大広間には入れきれず、3つの部屋で祝宴を挙げるという会であった。体育連盟のOBの方々もお見えになり、お元気なご挨拶をいただいた。体育関係者の会はこのように大勢集まることが多い。

○11月29日 新勝寺額堂耐震補強工事安全祈願法要について

国の重要文化財である新勝寺の額堂が、東日本大震災の影響で礎石と柱がずれるなど耐震補強が必要な状況となった。このため新勝寺では、国や県、市の補助を受けて平成30年の開基1080年祭記念大開帳に併せて耐震補強工事をする事となった。その工事の安全祈願祭である。当日は橋本照稔貫首が自ら安全祈願をする等、この額堂は新勝寺としても非常に重要な建造物であるという思いが伝わってきた。今後、工事が無事に完了することをお祈りしたい。

○12月2日 印旛郡市養護教諭会・保健研修会について

印旛地区の養護教諭さん達の保健研修会が下総みどり学園で開催された。小中一貫教育校としてのみどり学園の状況を多くの方に知っていただく良い機会と捉え、私もこの研修会に出席し研修会の冒頭にお話させていただいた。印旛管内に150を超える学校があり、その全ての学校から養護教諭の先生方が集まるのであるから大変である。校内見学も予定時間を大きく上回り関心の高さを伺わせた。研修の中心は下総みどり学園の2人の養護教諭の発表であり、統合までの経緯を養護教諭の立場からどう捉え、どう対応してきたか、また、現在はどのように児童や生徒に対応しているかなど具体的な資料を基に発表し質疑応答が行われた。大勢の参加者の会であり、あまり意見発表はなかったが、提案した下総みどり学園の2人の養護教諭がいかにしっかりと計画を立て着実に保健室運営を行ってきたかがよく分かるものであった。

○12月5日 教育長・校長合同会議について

北総地区全小中学校の校長及び管内市町の教育長等が多古町コミュニティプラザホールに集まり、年度末人事を中心とした北総教育事務所からの話を伺った。この会議は以前は印旛、香取、海匝の3地区で行われていたものだが、数年前から多古町にあるコミュニティプラザホールで開かれるようになった。そもそも3地区が一つになり北総教育事務所として県の出先機関が統合されたのであるから本来の姿になったというべきである。しかし、地域が広いので集まるのは容易ではない。県は負担を減らすことになるが、逆に市町には負担が増す。であるなら昨年のように簡単に説明し質疑応答の時間も持たないようなやり方では納得がいかないと事前に事務所に伝えておいたためか、今年はこれまで以上に具体的な説明をし質疑応答の時間もとっていただいた。互いに協力し合って人事を進めていくわけであるから、どちらか一方が強すぎではいけない。歩み寄って地区全体のレベルアップにつながるように各市町が歩調を合わせ

て人事に臨みたい。

○12月5日 千葉ロッテ選手との交流の夕べについて

日航ホテルで千葉ロッテ選手との交流会が開かれた。今年は、加藤、大谷、上野、三木、吉原の5選手が出席されロッテファンとの交流を行った。今年のロッテはクライマックスシリーズにも進出できず不本意な結果に終わったが、次年度こそ優勝を目指してという大きな声援が飛んでいた。

○12月6日 成田市文化財保護協会創立60周年記念式典について

メルキュールホテルで開催。記念式典では、文化財保護協会会員として50年、40年、30年以上のそれぞれの会員に対し感謝状が贈呈された。60年といえば、成田市の市制が開始された時と同じである。息の長い活動とするためには、後継者が育つことが必要だが他の組織と同様、どこも課題は同じように思われた。また、この記念式典の後、明治大学名誉教授の大塚初重先生から「古代の天皇陵と成田の古墳」と題してご講演があった。いつもながら大塚先生のお話はとても興味深いもので、先生ご自身が今年度すでに3冊もの本を出版されている等、とても89歳の高齢になるとは思えない程、活動的で変わらぬ情熱をお持ちだと改めて実感させられた。

○12月6日 千葉ロッテ唐川選手激励会について

成田小学校、西中学校、成田高校と学び、現在千葉ロッテの投手として活躍中の唐川選手を励ます会が日航ホテルで開かれた。生粋の成田っ子であるからこそ地元のファンが中心になって「しっかり支えていくんだ、応援するんだ」という会である。今シーズンの成績はこれまでにないほど低調であったが、それが結局ロッテの成績が振るわない結果となってしまったことは事実である。唐川投手の力が千葉ロッテを支えていく基になる。集まったファンは皆そういう思いであった。唐川選手自身もご自身の成績不良も相当反省していたようであるが、まだまだ若い選手である。思い切って殻を破るような飛躍を期待したいものである。

○12月7日 第84回印旛郡市駅伝競走大会について

佐倉市の岩名運動公園陸上競技場をスタート、ゴールとする歴史と伝統のある駅伝競走大会が開かれ出席した。昨年は成田市が一般の部で優勝するなど大活躍したが、今年は有望選手が出場できないなど良い成績は望めないという事前の情報があったが、結果もそうだった。私は、今年初めて選手の後を車で追いかける形で全行程を通して応援させていただいた。駅伝は走る選手を中継地点まで輸送したり選手の荷物を異動させたり、もちろん体調管理まで含め大変な労力が必要である。選手がそろえばできるというわけではない。大勢の人の協力があって初めて開催できる。コースの途中で寒風の吹きすさぶ中、監察役で手伝っている生涯スポーツ課職員が何人もいて本当にご苦労様という気持ちになった。テレビでは選手の活躍ばかり伝えてい

るが、こうした脇役の大切さをよく知ることができて良かった。なお、駅伝の結果は、一般の部で5位、優勝は印西市、2位が栄町だった。

○12月7日 スポーツ推進委員連絡協議会表彰祝賀会について

スポーツ推進員として活躍し県から表彰を受けた方、社会教育委員連絡協議会表彰を受けた方など4名の表彰者をお祝いする会が開かれ出席した。スポーツ推進委員連絡協議会は菅沢会長さんが強力なリーダーシップを取って引っ張っている。市の大きな体育行事であるスポーツフェスティバルやPOPラン大会はもちろん様々なスポーツイベントで活躍していただいている。日頃のご労苦に感謝したい。

○12月12日 なかよし発表会について

大栄公民館プラザホールで開催された。市内の小中学校特別支援学級の子どもたちが一堂に会し、それぞれ、学校や地区単位で取り組んできた成果を発表する会である。今年には本城小学校の児童が司会進行役をしていたが、本当に見事な運営で驚いた。原稿も見ずに堂々と進行する姿には、この子がどうして特別支援の必要な子なのだろうかと思えるほどで、普段の指導の成果がよく表れていたと感心した。特別支援学級の子どもたちは、この他に運動会や宿泊体験学習など市内の全学級が合同で開催する機会が何度かある。多くの仲間と知り合って共に学ぶ中で交流を深め社会的な自立を目指せるように成長してほしいという大きな狙いがそこにある。指導する先生方も様々であるが、最近は若い先生がずいぶん増えてきたように思う。この学級の指導を基本として全ての学級で子ども一人一人がその人間性や気持ちが尊重され様々な体験を通して、しっかりと学び育つことができるような学校にしていきたい。

○12月14日 成田市青少年感動劇場「はいだしょうこクリスマスファミリーコンサート」について

成田国際文化会館で開催された。今年、成田小、美郷台小、吾妻小、平成小、公津の杜小、加良部小の6校が出演した。前半が小学校の児童の合唱、後半が、はいだしょうこ主演のコンサートとなったが、最後に出演した全児童がホール内に並び、はいだしょうこさんと一緒に歌う場面があり会場は大いに盛り上がった。はいだしょうこさんとのジョイントということで各校の合唱が終わった後一緒に歌う場面もあったが、大変あっさりとしていて、子どもたちとのやりとりもないし「こんなものかなー」という印象であった。出演校が多いという問題もあるのだろうが、ジョイントコンサートというには物足りないのでは、と思えた。それだけに最終場面になってから、全員で合唱したのは良かった。欲を言えばカラオケ伴奏ではなく、バンド演奏で歌えたらもっと良かったのにと感じた。

《教育長報告に対する主な質疑》

委員：12月12日のなかよし発表会に初めて参加した、予想を上回る素晴らしい出来で、司会をされた本城小学校の子どもたちが、とてもはっきりとしており健常者よりも素晴らしいのではないかと感じた。もともとそのような才能のある子どもかと思って聞いたが、この日のために練習をしたということを知り、改めて特別支援教育の可能性や、やり方によってはいくらかでも子どもたちを伸ばすことが出来るということを体験させていただいた。また、桜田小学校の子の劇は、劇団が演じているような出来でした。他にも、フラフープをまわす子がいたが、満面の笑みで「まわします」といって始めたので、指導者はその子の弱点を伸ばそうという思いで指導をされていることを感じられた。特別支援教育に限らず指導技術だけでなく、センスや遊び心等、そのようなものも含めて指導力であると痛感した。

委員長：明治大学成田社会人大学の修了式に出席。出席者は60歳以上の方がほとんどだが、学習意欲の高さに驚き、まだまだ勉強がしたいという気持ちをお持ちだということが感じられた。女性が少なかったが、公民館事業については男性が少ないとのことだったので、それぞれ好みはあると思うが、バランスが取れればと思う。次に、POPラン大会について、毎年表彰式の進行について要望をしているが、今年は、比較的スムーズに運営が出来たと思う。教育委員で全ての表彰式に参加したが、表彰式の進行について提案があるとの話をどなたかされていたが、提案があるなら事前に教えていただきたい。

関川教育長：担当課のプランではなく司会進行役の運営委員のプランではないかと思う。

委員長：素晴らしい成績を上げた方々への表彰なので、進行のプランがあれば事前に知らせていただきたい。

3.議 事

(1) 議 案

(議案第1号は成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 平成26年度印旛郡市地方教育委員会連絡協議会教育功労表彰者の推薦について

《審議結果》

可 決

<非公開を解く>

議案第2号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴う関係例規の改正について

【伊藤教育総務課長 議案資料に基づき説明】

(要旨)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月1日から施行され、教育委員会制度の見直しが行われる。これに伴い同日以降に就任する教育長については、現行の教育長と教育委員長を統合し教育委員会を代表する新教育長として任命されるほか、教育委員会は、教育長と教育委員を以て組織すること、教育委員会の新教育長への、いわゆるチェック機能の強化と会議の透明化を図ること等の教育委員会制度の見直しが行われる。この法改正に伴い、同法を引用する関係例規の改正が必要になることから、記載の成田市教育委員会公告式規則他、教育委員会関係の規則7件と、成田市財務規則の合計9件の例規について一部改正を行う。初めに教育委員会の組織の変更に関し、教育委員会の規則公布や教育委員会会議の運営は、新教育長が執行することになるため関係例規を改正する。また、委員会の組織については、これまでは「教育委員」という表記が教育長を含む全委員を示していたことに対し、今後は「教育長及び教育委員」という表記に改める必要があるため、「教育委員」の表記のある「教育委員会功労者表彰規則」等の改正を行う。その他にも法律において委員長職の廃止や教育長の職務代理者の設置が規定されたことから関係する規程の整備を行う。次に、法改正とは関係ないが、今回の改正に合わせて見直しを行うものを説明する。まず、「教育委員会公告式規則第2条第1項」において「規則の公布は、議決後7日以内に公布する」とあるが、手続き上、公布まで相当の日数がかかること、他市においても7日ではなく14日や20日としているところや規定を設けていない団体もあること、本市の公告式条例についても公布までの日数の規定が設けられていないことから、教育委員会規則についても市条例との整合性を図るため第2条第1項の削除を提案する。次に「同条第2項」について、「公布は、委員長が署名押

印する」とされているが、市条例においては、押印規定がないことから押印規定についても整合性を図るため削除する。次に「公印規則」の教育長印については、一般文書用のみ規定されているが、各種展示会やスポーツ大会等で「教育長賞」が設けられており、これまでは表彰状に一般文書用の公印を使用していたが、他市町を確認したところ、多くの市町で表彰用の公印が設置されていることから、本市においても「表彰状用」の公印を作成する。

施行日は、法改正と同じ平成27年4月1日を施行日とするが、新教育長の就任に伴う組織変更に関する部分については、経過措置を設け、新教育長の就任の日から適用することになる。

次に教育長の身分変更に伴う、条例改正について報告する。今回の改正で、教育長の身分が一般職から特別職に変更されることから、新教育長の服務について地方公務員法の適用を受けなくなること、教育長の給与、勤務条件等の条例の根拠規定であった教育公務員特例法第16条が削除されること、教育委員会の委員長職が廃止されること等から、新教育長の給与、勤務条件等及び教育委員会委員長の報酬を規定する関係例規について所要の改正及び廃止をするとともに、新教育長について新たに規定が必要となる条例を制定する。その他、総合教育会議の設置に伴い、会議の運営の事務局の設置が必要となり、改正法において会議の主事は首長の権限で行うこととされていることから、本来であれば、企画政策部企画政策課が事務局になるが、この会議は、教育行政全般について市長と教育委員会が協議調整を行う場であることを考慮し、市長部局と協議した結果、会議の運営については、補助執行の形で教育総務課が運営にあたることで調整した。これに係る行政組織規則の見直しや補助執行に関する規程の整備については、市長部局が進めている。その他、市議会の「成田市議会委員会条例」において議会各委員会が教育委員長に対し、委員会への出席者の依頼をするという規定があるが、教育委員長の表記を教育長に変更する改正を行う予定となっている。

《議案第2号に関する主な質疑》

委員長：「教育委員長」の表記を「教育長」に変えるというのが主な内容か。

伊藤教育総務課長：教育委員会制度については、法律で定められた規程の中で教育委員会制度が運用されており、教育委員会制度の中立性を保つため、教育委員会の運営については「教育委員会規則」で制度が運用されている。その中で「委員長」が行うとされる

規程を「教育長」に改正することが主なものになっている。

委員長：議会委員会条例の第21条の出席説明の要求で「教育委員会の委員長」となっているものも「教育長」に改正するのか。

伊藤教育総務課長：教育民生常任委員会等への出席者報告については、委員長名宛てに出席依頼がされるが、委員長職が廃止になるため、今後は教育長に対して依頼がされるという規定に代わる。

委員：総合教育会議においても教育委員会会議と同様に決議のようなことをするのか。

伊藤教育総務課長：総合教育会議は、首長と教育委員会が執行機関として同等の立場で話し合いをするもので、教育委員会会議のように事案の議決をするものではない。また、改正法では、首長が教育大綱を策定するとされているが、大綱は、総合教育会議の中で教育委員の意見を参考にしながら策定することになる。総合教育会議の制度としては首長と意見調整を行う場であると考えていただきたい。

委員：年に何回開催するのか。

伊藤教育総務課長：開催については、まだ検討中で、大綱を策定する場面での開催が必要だと思うので、年数回開催することを考えている。

委員長：教育委員会会議の定例会はなくなるのか。

伊藤教育総務課長：これからも教育委員会会議は、これまでと同様の役割を担うものであり、ここで決定されたことが、今後も教育委員会を動かすと考えていただきたい。

委員：改正の主旨として教育委員長と教育長が一緒になること以外で、委員にとって変化になるようなことはないのか。

伊藤教育総務課長：これまで教育委員会制度については、責任の所在が曖昧であるといわれてきたことから、今回、教育委員長と教育長を一本化することになった。そのため教育

長に権限が集中することから、教育長の事務執行については教育委員がチェック機能を担うことになるため、執行上の変化はないと思う。首長の関与についても教育行政の中立性の観点から教科書選定や教職員人事などへの関与はできないため今まで通りであるが、首長と直接協議を行う機会が増えるため、学校建設など予算を伴うものなどは、相談がしやすくなると思う。

委員：教育委員の立場が低くなるのではと感じるところがあったが。

伊藤教育総務課長：これまでと同様、議会で承認されて委員に選任されるという方式も変わらない。ただ、教育長が今までは委員の中に入って合議制の中で選任されていたものが、今後は直接市長から任命を受けることになる。教育長の権限が強くなったことで委員の立場が低くなるのではと感じたと思われるが、そうではなく今までと同じような形で運営をしていくことに変化はない。

関川教育長：大きく変わることは、総合教育会議が設置され教育委員と首長と一緒に話し合う会議が正式に出来ることで、直接委員の意見を首長に伝えられること。新教育長の権限が強くなるということだが、それほど今と大きく変わるものではないと考える。ただ、会議の招集や決裁などは、新教育長に権限が移るが、単独で出来るものではなく、たとえば人事案件など委員の賛成を得なければ、教育委員会としての決定事項にはならないため委員の役割は、今後も変わらないという見方でいいと思う。ただ、総合教育会議で教育大綱を決めていくということなので首長によっては、様々な要望を出してくることもあるかと思う。しかし、これについても踏み込めない領域があり、例えば、人事や教育課程、生徒指導までは踏み込んではいけないとされている。

《審議結果》

可 決

(2) 協 議

協議第1号 大栄地区統合小学校基本設計について

【藤崎学校施設課長 議案資料に基づき説明】

(要旨)

大栄地区統合小学校の基本設計について、8月定例会で小中施設一体型校舎として建設を進

めるということを報告し、それに従い設計コンサルから様々な教室配置案の提示を受け、教育長以下事務局で検討してきたが、概ね方向性が見えてきたことから、現時点での計画案を見ていただき、ご意見ご提案などをいただきたい。初めに配置については、校舎は南向き、3階建て2列のH型を考えている。南側校舎には学級室を配置し、北側校舎には特別教室を配置することを基本とする。北側の一角に大アリーナ、2階建ての小アリーナを配置する。小アリーナは1階に児童ホームを設置し、2階を運動場とする。人の動線については、スクールバスを利用する児童はバスロータリーの乗降場から南北校舎の間にある昇降口を使用し、自転車通学する生徒は駐輪場から南側校舎中央の昇降口を使用することとした。職員は、アリーナ周辺の駐車場から小アリーナ1階に設けた玄関を利用する。次に、1階の配置計画については、南側校舎の西側に職員室等を配置し、角に来賓等学校訪問者の玄関を配置する。教職員用の玄関は小アリーナ側に配置。教室は、1・2年生の学級を考えているが、通路側は多目的に使用できるオープンスペースを確保している。図書室は全校で1つとして大きく確保した。また、ホール状の多目的室も広く考えている。大アリーナの並びにある技術室については、通常は木工、金工それぞれ別の部屋としているが、ここでは1つの大部屋として自由なレイアウトで使用できるようにした。2階の配置計画では、3年生から6年生までの学級を配置し、北側校舎には小学生レベルが使用する特別教室を配置している。小アリーナは2階にあり、武道場も兼ねる。3階の配置計画では、中学生レベルの学級と特別教室を配置している。なお、教室の大きさは、1年から9年まで通常は中学生用としている9m×8mの大きさを統一した。この案の段階で現在一貫教育を行っている下総みどり学園の先生方に意見を伺ったところ、1階の配置では、調理室と2階パソコン教室の配置を入れ替えた方が良いのではとの意見と、児童が中学生用昇降口からグラウンドに出られるよう配慮してほしいという提案があり、2階の学級配置を見たとき、みどり学園方式に従うと4年と5年では授業時間が異なるので並んで配置されていると支障が出ないかという意見があったが、この点については、今後、学級配置を変えることも検討していきたいと考えている。また、グラウンドの計画については、体育祭の際の使い方まで検討した方が良くとの意見を頂いた。

《協議第1号に関する主な質疑》

委員：本年2月の大栄地区小学校統合推進委員会の開催から、この短期間でよくここまで進めていただいた。

委員：小学生が休み時間などに外で遊べる場所は何処になるのか。

藤崎学校施設課長：南側の三角の低学年運動スペースに遊具などを配置して、こちらで遊ぶようになる。関連して昇降口はすぐに出られる場所にしてほしいとの意見があったことから、昇降口は正面に配置した。

委員：校舎の2階、3階は吹き抜けか。

藤崎学校施設課長：1階は中庭で、2階、3階は、吹き抜けになっている。また、小学生の昇降口前は、交流広場とし下総みどり学園と同様天幕を張る予定。

委員：中庭は、上履きで出られるとか芝生張とかになっているのか。

藤崎学校施設課長：北側に特別支援教室が配置されているので出入りが出来るよう考えている。

委員長：体育館の大アリーナは、中学生が主に使うのか。

藤崎学校施設課長：どちらが使うということではなく、ステージやイベントが行える仕様となっている。

委員長：保健室の前には救急車が入れるのか。

藤崎学校施設課長：1階正面に小学校保健室を配置しており、緊急車両は大アリーナ、小アリーナ側から迂回して保健室前に進入できるようになっている。

委員長：中学生が授業をしながら工事を進められるのか。

藤崎学校施設課長：現在あるメイングラウンドまでが利用エリアとして授業が行える。安全エリアということで工事車両も入らない。部活動は多少支障が出ると思うが授業には支障はない。

委員長：現在ある校舎の建っている所は、多目的練習場となっているが、掘削するのか。

藤崎学校施設課長：グラウンドの形は元々の地形のまま利用する。

委 員：男子用更衣室は設けないのか。

藤崎学校施設課長：女子便所の隣に配置を予定しているが、女子便所の隣はどうかと思うので再検討する。

委 員：小学生用の男子更衣室は無いのか。

藤崎学校施設課長：小学生男子用は計画していない。

委 員：小学生の男子用更衣室は必要ないのか。

関川教育長：小学生の男子用更衣室を設けている学校は無いと思う。男子が教室を使用して女子が更衣室を利用している。

委 員：ロッカーなどはあるのか。

越川整備係長：下総みどり学園の新校舎で棚を整備しているので、今後の検討課題としたい。

《協議結果》

本日の協議内容を十分考慮し、更により良いものにすべく事務局において検討をしていただきたい。

(3) 報告事項

報告第1号 成田市学校教育長期ビジョンにおける教育施策の成果と課題について

【伊藤教育総務課長 議案資料に基づき報告】

(要旨)

学校教育長期ビジョンは、本市の学校教育行政の指針として平成13年度に策定し、教育委員会では、この長期ビジョンの基本方針に基づき、各種施策を展開し、関係する事業の進行管理を行っており、例年、主な事業の進捗状況について、本会議においてご報告させていただ

ている。計画期間を平成13年度から15年間としているため、平成27年度で終了となるが、本年度より新たに長期ビジョンの後継となる「成田市学校教育振興基本計画」の策定作業に着手した。また、今回はこの計画に長期ビジョンの検証結果を反映させるため、平成25年度までの取り組みの実績についてのとりまとめを行った。

《報告第1号に関する主な質疑》

委員：地域人材の登用については、校長先生によって受け止め方が変わることがあるため、全部の校長先生に意思統一をしていただき、校長先生が代わっても学校と関われるような体制を整えていただきたい。

伊藤教育総務課長：地域の人材登用は、学校にとっても非常に重要なことなので、周知をしていく。

委員：少人数学習推進教員がいろいろな場面で登場され、大変ありがたいが、学校訪問で授業展開を見せていただくと、いろいろな方がおり、人によっては傍観者のようになっていられるので、せっかくこれだけの人材登用をしているのだから推進教員についても資質の向上をお願いしたい。また、全国学力状況調査においても推進教員をたくさん登用しているのだから、結果が少しずつでも上昇していくようになればと感じている。

柳鶴学務課長：推進教員については、学務課が各学校に配置をしているが、ただ配置をすればいいというものではなく、子どもたちのためになる効果的な活用が求められている。例年6月、7月に管理主事が訪問して、直接本人にどういった活動をなされているか、また管理職についてもどのような活用方法をしているかそれぞれヒアリングを行っている。年2回研修会を実施しておりますので、今後研修内容の充実も図りたい。

委員：情報教育コミュニケーション教育の充実について、児童一人あたりのパソコンの数が0.14台ということで少ないと感じた。ICT化が進んでいると思うので、子どもたちにもっとタブレット端末を導入するとか最先端のタブレットの導入など時代に合った対応をしていただきたい。

鈴木計画調整係長：台数は、小中学校のコンピューター教室でその学校の一番生徒数の多い学級が授業を出来る数である約40台を導入している。また、中学校ではクラスに1台配備している。生徒数で割るとこのような数字になってしまうが、コンピューター教室で授業を受けるときは一人1台の設置を実現している。

委員：今、子どもたちは、タブレットを使用するのは当たり前のような時代なので、これからはタブレットの導入も考えていただければと思う。

鈴木計画調整係長：教育振興基本計画策定のため委員会内部で協議をしているが、タブレット端末導入のためには、無線LAN環境の整備が必要になるので、それを行った上で、どのような活用が出来るか、配備については、現在コンピューター教室に配備しているのはデスクトップ端末なのでそれに入れ替わる形で入れるのか、デスクトップとは別に各学級に持って行けるよう別途整備するか等検討していきたい。

委員：関連して、今、子どもたちは学校で教わらなくてもタブレットを操作できるような状況になっている。10年前はパソコンを使えるようにするということが大切だったが、10年前と大きく違い、今は、情報の怖さを教えるのが先ではないかを感じる。情報教育の根本が変化していると思う。小学校の最初の時点でパソコンを使う前に、パソコンを使うことの怖さを教えるなど学校でなければ出来ないことを推進していただきたい。

伊藤教育総務課長：正しい使い方を教えることについては、教育委員会でも意識しているところで、子どもたちが正しい使い方を理解するようしていきたい。

委員長：1ページに「学校現場でのいじめ、不登校、学級崩壊など様々な問題が深刻化しており、これまでの教育のあり方の見直しが求められております。」と記載されているが、この言葉をすごく重要視していただきたいと思う。まず、柱1の「未来社会に生きる基礎学力の習得・充実」というところで、少人数教育推進教員がたくさん配備されているわけだが、どれだけ成果が上がっているのかということ全国学力学習状況調査の結果でみると平均点に達していないものが多々あり、それで果たしていいのか、もう少し頑張れるのではないかと思う。そうしないとこれだけ人数を揃えているのだ

から市民に納得のいく説明が出来ないと思うので、ぜひ平均点位は取っていただきたいと思う。難しい学校もあるかと思うが、やり方をかえれば成果を上げている学校もあるわけで、それが成田市の学校に求められていることだと思う。柱1については、もう少しやり方を考えていただいて基礎学力、思考力の向上に力を注いでいただきたい。また、同じく国際理解教育の充実について、ALTの活用で全国より20ポイント以上上回っているということは、まさに本市の英語教育の成果であり誇れることだと思う。次に柱2についてが、例えば問題解決型学習の推進について、いつも意見を述べているが、②課題解決型学習の推進のところで「授業研修会においては、課題解決型学習が進んできているが、日々の授業においても積極的に進めていくことが課題である」と記載してあるが、研修だけで終わっているのではないかと思う。普段の授業の中でも課題学習をどのように取り入れて行ったらよいか、考える力をつけるということが大きな課題だと思う。研究授業ではよくやっているが、日々の授業ではあまりやっていないのではないかと思う。ぜひ、先生方がそれぞれ試行錯誤して自分の指導方法を確立し、それで成果が上がれば他の先生に紹介するような指導をしていただきたい。次に柱3について、ふれあいる一む21の成果が大変上がっており、学校に戻ることのできた児童生徒が増加しているので、今後もさらに充実していただきたい。次に柱4学校評議員制度の活用で校長が意見を求めた件数が合併前の平成13年より合併後の平成25年度の数が少ないが、制度が形骸化しているなどの課題があるのではないか。次に柱5の「成田学の創造」について、佐倉には佐倉藩があり殿様もいたので佐倉学というものがあり、成田も歴史があるので成田の歴史、成田を知ることが成田学とすればいいと思う。子どもたちに成田の歴史を通じて成田を理解して、好きになってもらうことが重要だと思う。

柳鶴学務課長：柱4の学校評議員制度の内容については、この評価指標は、学校評議員を招集し校長が意見を求めた件数となっているが、設置された当時は、招集して意見を伺うことがやり易い方法と考えていたのだと思うが、制度そのものは評議員を招集することは求めている。たとえば、学校運営に対し校長が意見を求めたい時に、全員を招集するのではなく、個別に意見を伺うということも可能なので、指標そのものはこのような数字になっているが、別の角度から見ればそう大きなマイナス要因になっていると考える必要はないと思う。制度が始まった時とは意識が異なっていると思うのでそれほど大きな差ではないと考える。

委員長：私が現職の時は、年に3回全員を招集し、授業を見て給食を食べていただき、ご意見を伺っていた。せっかく制度があるので、いろいろな機会にお呼びして意見を伺うことも大切だと思う。

委員：無理やり任命されたのか、あまり評議員としての自覚のない方もいる。ただ、今年、津富浦小学校で道德の研究会に評議員が招集されるなど新たな取り組みも始まっている。評議員の任期は1年だが、長くやっている方もいるので再任を3年にするとかの縛りも必要ではないかと思う。

柳鶴学務課長：評議員制度の課題として評議員を学校長が推薦し教育委員会が承認するかという点で、大規模校ではたくさんの方がいるが、小規模校では地域の方が少なく評議員の対象者が限られて、結果的に長年評議員をやっていたという状況がある。しかし、あまり任期が長期化することは好ましくないので、現在では長く評議員をやっている方は少なくなっている。形骸化ということだが、制度が出来てから10年以上経過しているので、もう一度確認しながら進めていく必要はあると思う。

委員長：任期の縛りはないのか。

柳鶴学務課長：規則上は何年という規定はない。

関川教育長：学校評議員は、学校経営について意見を述べるだけでなく、学校の外部評価委員も兼ねており、学校を知らない方に評価をしていただくわけにはいかないので、学校評議員に評価委員をお願いしているという別の側面もある。

報告第2号 学力学習状況調査の結果について

【大竹教育指導課長 資料に基づき報告】

(要旨)

今回の調査については、平成26年4月22日(火)に実施しており、実施対象は、小学6年生及び中学3年生、実施教科は、国語、算数・数学と質問紙による調査となっている。本調査の出題内容は、それぞれ前学年までに学習した内容を基に出題されているが、文科省の実施要領で、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、こ

の結果のみをもって学力が高い、低いと言い切ることはできないとされている。市全体の結果としては、国語AB、算数・数学ABとも、全国及び県の平均正答率とほぼ同程度となっており、例年と同様の結果となっているが、小学校の国語Aについては、全国を若干上回っているが、他の部分については僅かずつ全国と県を下回っている。小学校の国語Bについては、正答率で2ポイントの差があるが、正答数では1問の差はないという状況なので、正答率と正答数を合せてみると、ほぼ同程度であるといえる。ただ、全国及び県とも同様の傾向だが、A問題、主として基礎基本的な知識を問う問題では正答率が高く、B問題、主として活用力を問う問題では正答率が低くなっている。裏面には質問紙の中から学習習慣等に関するデータを抜粋して載せている。特徴的な数値としては、中学生のネット利用時間が2時間を超える生徒が、全国との比較で6ポイント以上、上回っている。このことと関連して、携帯電話の所持率が全国を6ポイント近く上回っている。「計画的に家庭学習を進めている」という設問に対しては、小中とも全国を下回っているが、特に中学校では-4.4ポイントと、その差が大きくなっている。また、小学校で「国語の勉強が好きだ」と回答している児童は全国を5ポイント以上上回り、「読書が好きだ」と回答した児童生徒の割合は、小学校で5.8ポイント、中学校で4.5ポイント、全国を上回っている。今回は、平均の数値を資料として報告したが、各学校には、それぞれ児童生徒の個別のデータが送られているので、個々の児童生徒のデータを見ていただき、学校ごとにしっかり分析をして学力向上に生かしていただくよう教育委員会として要請をしている。

《報告第2号に関する主な質疑》

委員：全国平均より低い数値については、反省点として真摯に受け止めなければと思う。出来れば全国、県平均より5ポイントくらい高い数値を目標に出来ればと思う。対象になっていない小学校の英語などがあれば、おそらく国県の平均を上回ると思う。ここに出てない面で成田市は力を入れているわけだが、コミュニケーションということでは、国語も同じなので、抱き合わせて鍛えていただきたい。11月に松戸市の小学校の視察を行ったが、英語については成田市の小学校が上回っていると思うが、国語も併せて考えると松戸市的小学校の方が進んでいるという感想を持った。

委員：昨年に引き続きB問題の正答率が低いということで、昨年は講師を呼んで研修をするなどの対応をしたと思うが、この結果を受けて本年は何か対応はしたのか。

大竹教育指導課長：今回の調査は文科省の調査で、国語、算数等一部の教科だが、成田市としては、今まで1学期に実施していた市の学力調査を、教科数も増やして3学期に実施するので、その内容を分析して学校ごとに合った取り組みを考えていきたい。

委員：成田市の実施するテストは3学期に実施すると決まっているのか。

大竹教育指導課長：成田市独自に実施するテストは2学期までの授業内容の範囲において今年度の学習指導の成果を確認するという意味で1月に実施する。実施対象は、小学校1年生から中学校2年生まで。成田市の学力調査については、一部の学年だけではないので、その結果を分析して学校ごとに課題を捉えて次の学習指導に生かしていただきたい。個票については全員に配られるので、自分がどの問題に対しどの点が足りなかったのかを理解できるようになっている。

委員：個人は、それぞれ自分の出来なかったことを反省できると思うが、学校単位では例えば自分の学校は他より計算が弱いとか課題を検討しているのか。

大竹教育指導課長：学校ごとに全て結果が出るので、より具体的にそれぞれ詳細に分析が出来るものになっている。

委員長：要望になるが、ぜひ、個々の分析をそれぞれ学校でやっていただきたい。分析結果を踏まえて授業改善、指導改善に役立てていただければ、学校も随分変わっていくと思う。

(4) その他

・大栄幼稚園の保育料について（伊藤保育課長）

来年度から子ども子育て新制度がはじまり、その中に大栄幼稚園も組み入れられることから保育料の規定を変更する。保育料の実質的な保護者負担に変更はない。現状の保育料は一律6,000円で、所得に応じ減免制度が設けられているが、新制度では、世帯の所得の状況その他の事情を勘案し、実施主体である市町村が定めることとなるため、生活保護世帯の保育料をあらかじめ無料とする等、所要の改正を行う。

- ・ふれあいコンサートについて（秋山生涯学習課長）
- ・平成25年度成田市立図書館事業報告について（須賀澤図書館長）

4.委員長閉会宣言